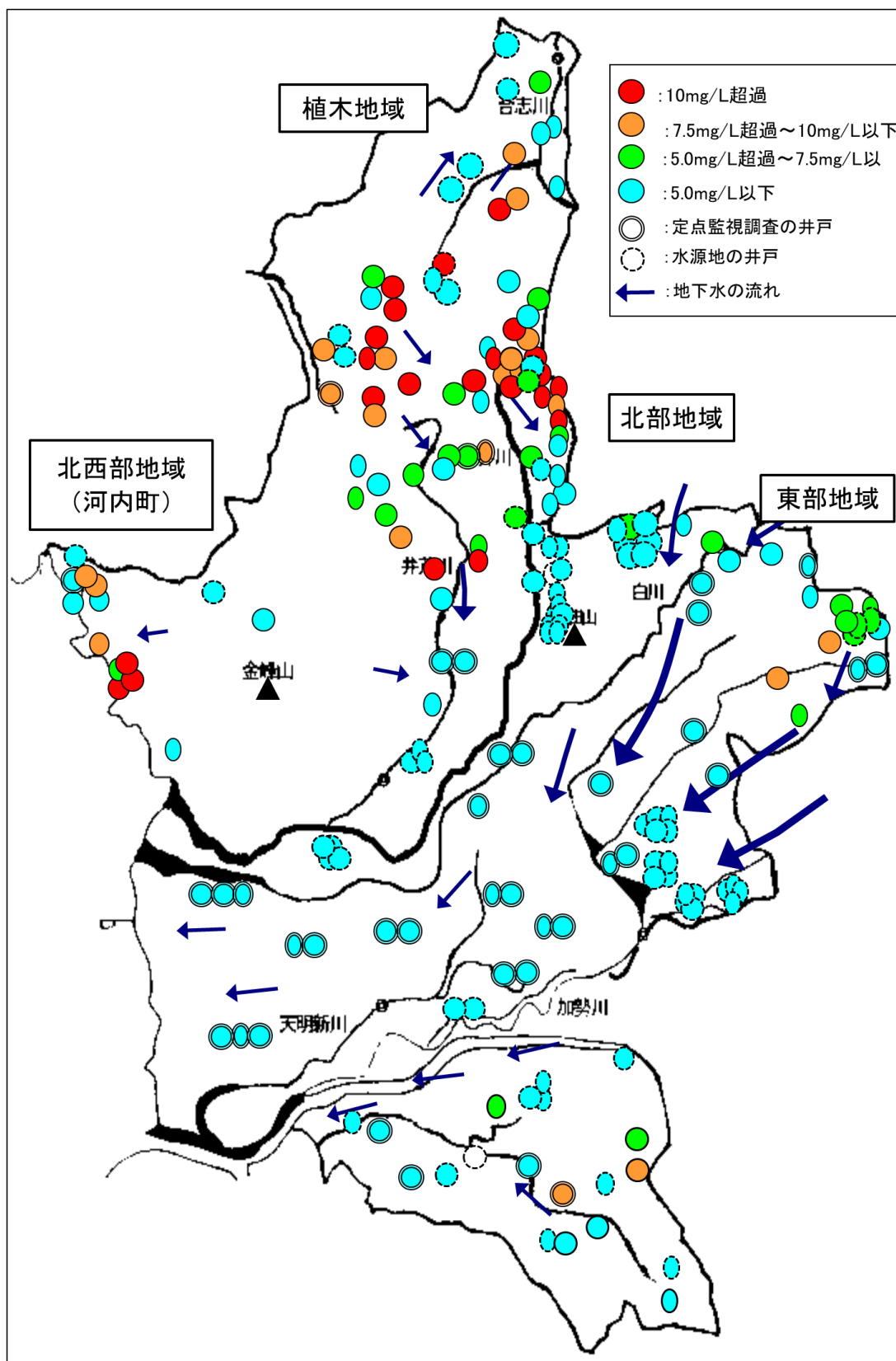


地下水の硝酸性窒素について

1 熊本市の地下水の硝酸性窒素について

(1) 地下水の硝酸性窒素濃度の現況について

令和2年度（2020年度）

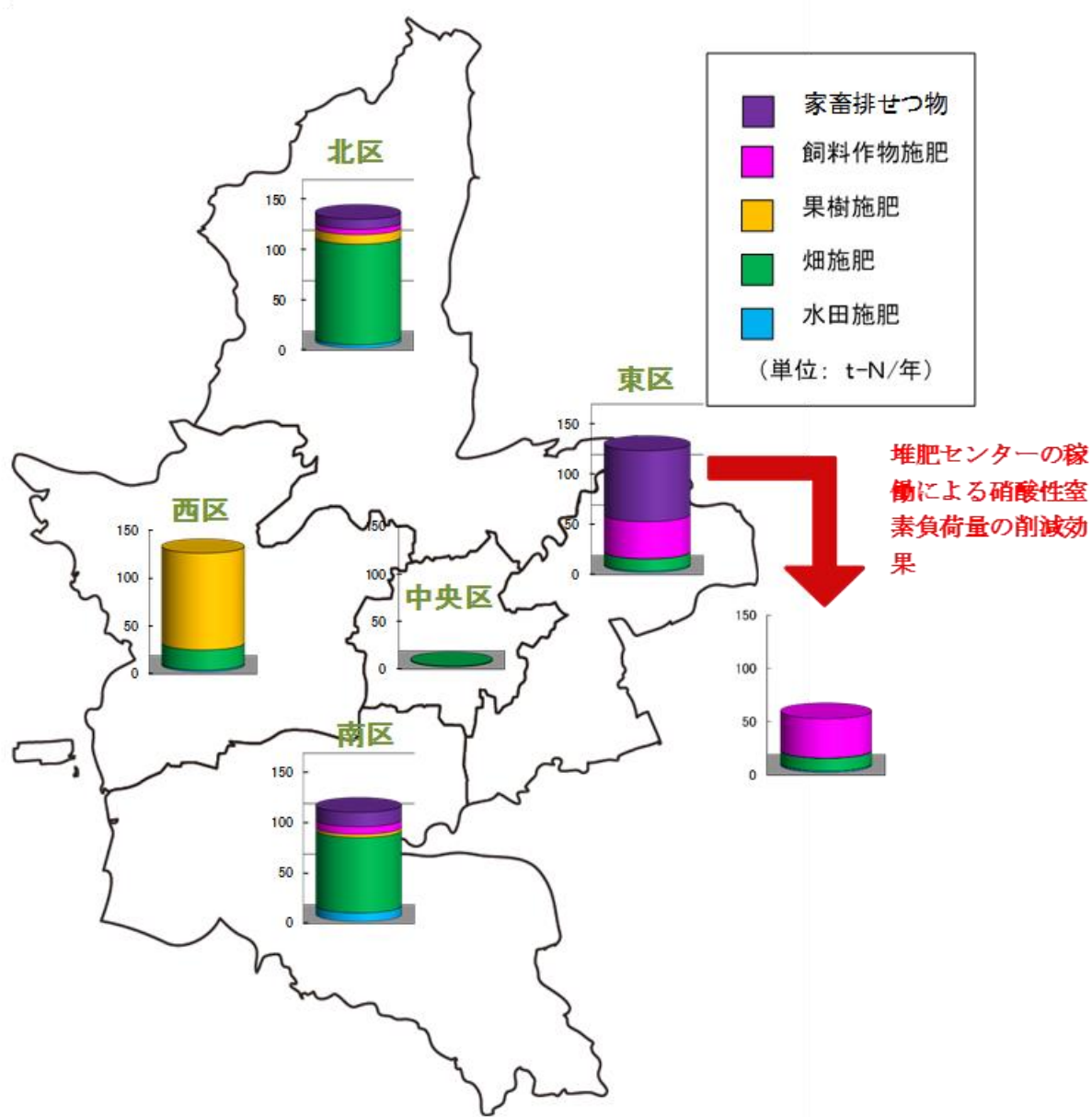


※水質汚濁防止法に基づく地下水の常時監視結果、及び上下水道局の原水検査結果から作成

(2) 各区における地下水への硝酸性窒素負荷量の推計

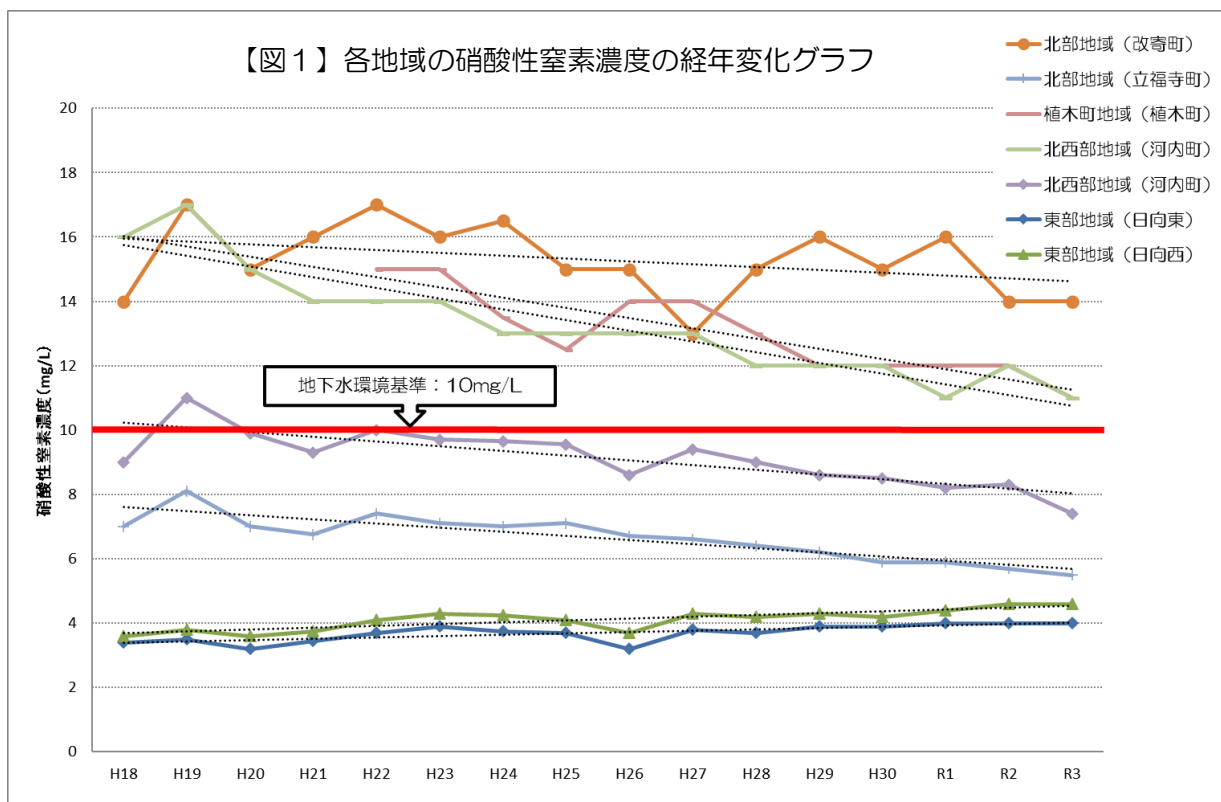
各区における地下水への硝酸性窒素負荷量の推計値とその内訳は下図のとおりである。

推計値の結果は、各区の農業の特性を反映している。東区は、家畜排せつ物（主に乳用牛）による硝酸性窒素負荷量が高い状態であったが、熊本市堆肥センターの稼働により、負荷量は大きく減少すると見込んでいる。西区では果樹施肥（主に温州みかん）、北区では畑施肥（主に施設園芸作物）、南区でも畑施肥（主に野菜）による硝酸性窒素負荷量が比較的高くなっている。



※平成 30 年度の農政関係統計資料等に基づき推計を行ったもの。

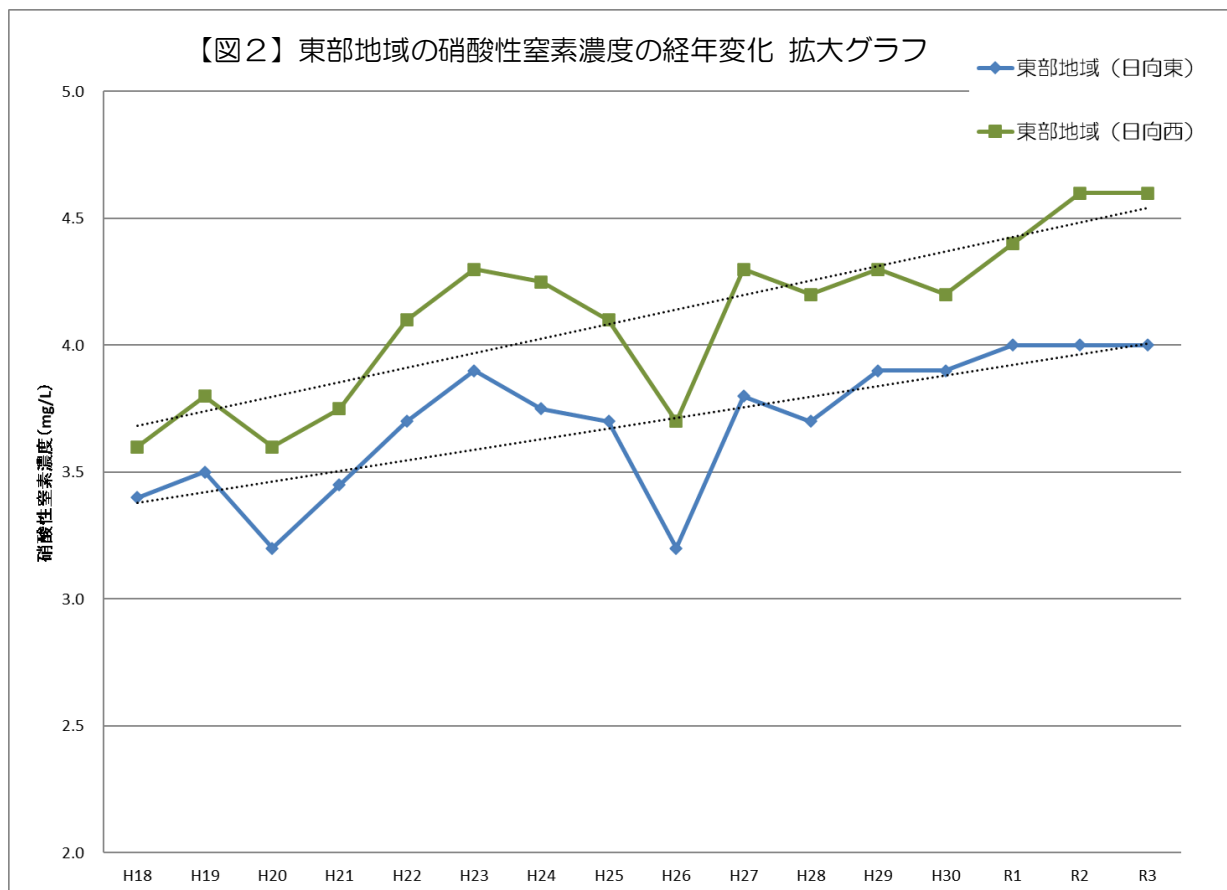
(3) 各地域の硝酸性窒素濃度の経年変化について



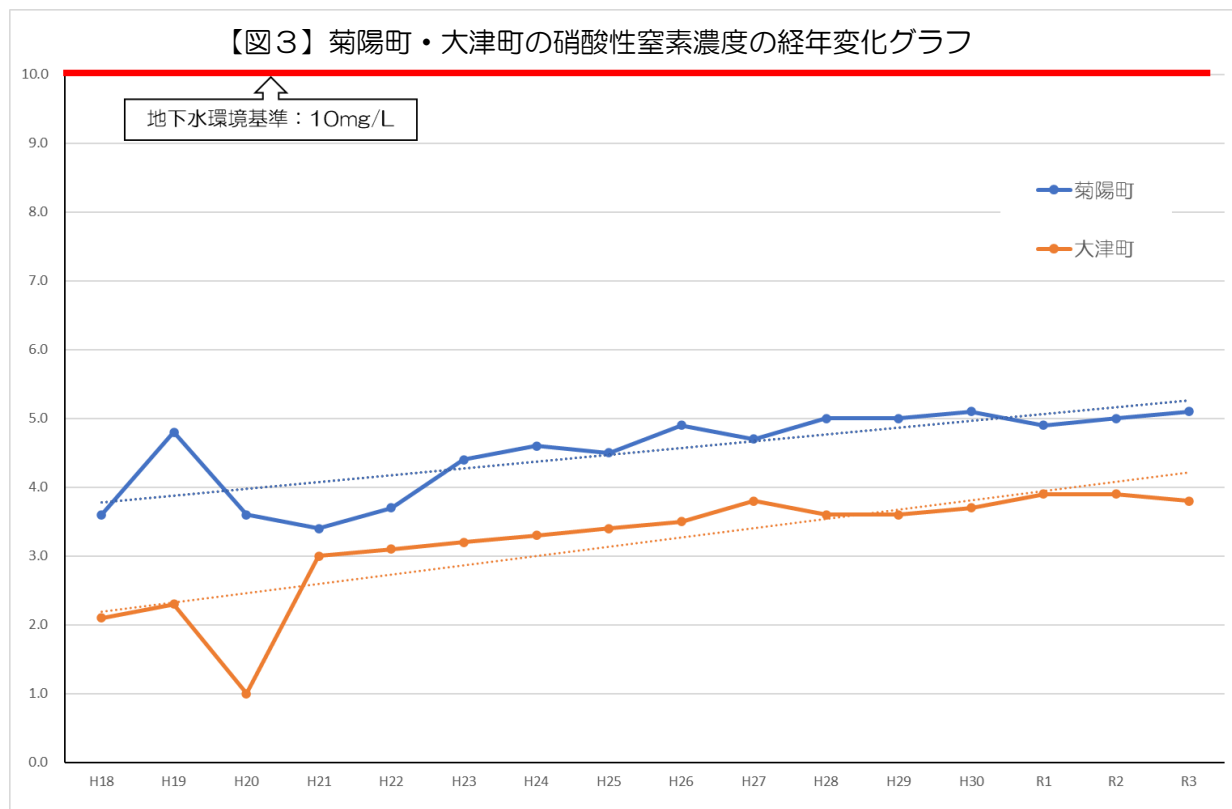
北部、植木町、北西部地域では地下水環境基準（10mg/L）の超過や基準値に近い高い濃度が見られるが、その濃度は減少傾向を示している。

東部地域では地下水環境基準の超過は見られないものの、上昇傾向が続いている。

東部地域の地下水の硝酸性窒素濃度の経年変化について拡大したグラフを図2に示す。



2 熊本市近隣（菊陽町・大津町）の地下水の硝酸性窒素濃度の経年変化について



公益財団法人くまもと地下水財団が熊本大学と共同で実施している熊本市近隣（大津町、菊陽町）の水道水源水質調査によれば、地下水環境基準の超過は見られないものの、その濃度は上昇傾向を示している。

3 硝酸性窒素削減対策について

- 農水局と連携した適正施肥・環境保全型農業の推進
- 東部堆肥センターの適正運営
- 東部堆肥センターで生産した堆肥の広域流通
- 熊本県及びくまもと地下水財団と連携した広域的な硝酸性窒素削減対策の実施